【古家正暢ゼミナール】 フィールドワーク・活動

タイトル	今，学校は先生を求めています（教職課程：古家正暢ゼミ）
対象地域	全国４７都道府県
テーマ	教育の未来　－思考する教室を創る－
キーワード	教科横断的な視点 「書を読み，町へ出よう」

　宇都宮キャンパスには教職課程が設置されています。理工学部では，数学・情報・工業・理科。柔道整復学科では保健体育。そして地域経済学科では，社会・地理歴史・公民科の教員免許を取得することが可能となっています。現在，全国で教員不足が深刻な問題となっています。教員不足は授業の質の低下や生徒と向き合う時間の減少を生み出します。声を大にして叫びたい。「今，学校は先生を求めています」 教職をめざしませんか…　 以下，これまでの教職履修生のコトバで綴ります。

● 宇都宮地方裁判所 「過失運転致死傷罪」の傍聴をして　A さん

　早めに裁判所についたので長椅子に腰を掛けていました。斜め前に女性二人が座っていました。法廷に入っても良いと言われたので傍聴席に座ろうとすると，先程，私の目の前にいた女性の一人が被告人席へ。人が死んでいる（人を殺した）というのに拘置所に入っていないのかと驚いた。それ以上に驚いたのは「執行猶予」付きの判決だったということだ。事件は直進車があるにもかかわらず，被告人が右折したため助手席に座っていた被告人の母親が亡くなったというものであった。

写真①　宇都宮地方裁判所

● 宇都宮美術館　スクールプログラムに参加して　B さん

宇都宮キャンパスの隣にあるというのに初めて訪れた。はじめに学芸員さんによる「展覧会ガイド」で見どころ等を聞いてから見学した。約●億円で購入したというルネ・マルグリットの『大家族』を見た。絵の下方に描かれていた波の表情は素晴らしいとは感じたが，なぜ中央部に鳥がいるのか…なぜ鳥が透けて青空が見えるのか…私には全くわからなかった。でも，美術館のもつ空間は心やすらぐものがあった。キャンパスから歩いて 20 分弱で来れるので，また訪れたいと思った。

写真②　宇都宮美術館「展覧会ガイド」

写真③　美術館を見学する学生

● 東京凸凹フィールドワーク　C さん

東京駅に集合して，最初に訪れたのは「将門塚（平将門の首塚）」 大手町が高層ビル街へと変貌しているにもかかわらず，21 世紀の現代にあっても「祟り」の伝説が生きているのか，ここだけは別世界のようだった。その後，靖国通りの南側にだけ広がる神田神保町の書店街の理由を考えたり，明治大学博物館（刑事部門）でギロチンや江戸時代の拷問の道具を見た。中国由来の建物は赤が多いのに黒い湯島聖堂を見て，最後は将門の霊を鎮めるという神田明神をお参りした。宇都宮線で東京までの往復4時間の旅はきつかった。

写真④　将門塚（平将門の首塚）

写真⑤　明治大学博物館　ギロチン

● 教育実習　D さん

毎朝の早起きがきつかった。普段から規則正しい生活をすることが大切だと改めて思った。他の学生よりも教職の授業をプラスで取らなければならないのできつかったが，一生に一度の素晴らしい思い出をつくることができた。自分でやってみたいと思う授業に挑戦した。授業に正解はないとも感じた。実習最終日の帰りの会で，生徒から花束や寄せ書き，あったかいコトバをかけてもらったら，思わず涙が出てきてしまった。恥ずかしいとも思ったが本当にうれしかった。

写真⑥　教育実習

● 卒業生（地域経済学科教職履修生）の活躍

2019 年度卒業生　瀧田　湧さん　文星芸術大学附属高等学校　地理歴史科・公民科教諭
硬式野球部長として，16 年ぶり 11 回目の甲子園出場を果たす。締めるところはしっかり締め，褒めて選手を伸ばして，選手の長所を最大限活かすようなチームづくりをしていきたいという。学生時代には「2018 広島豪雨災害」にあたり、同級生と二人で広島県呉市を訪ね，家の中に堆積していた土砂をバケツリレーで外に出す作業などをしました。

2021 年度卒業生　秋元啓吾さん　福島県立安積高等学校　地理科教諭
地域経済学科卒業生として，初めて公立学校の社会科教員採用試験に合格。2022 年度から 3 年間，茨城県筑西市立下館中学校に社会科教諭として勤務した後，かねてより抱いていた高校野球に携わりたいとの夢を実現するため，福島県の高等学校の教員採用試験を受け直し，2024 年度より県立高校へ勤務することとなる。なお，卒業式では地域経済学科「総代」を務めた。

その他，栃木県公立中学校社会教諭❶　茨城県公立中学校社会科教諭❶　栃木県立高等学校公民科常勤講師❶　福島県公立中学校常勤講師❶　また，教職には就かなかったものの警察・市役所・銀行・鉄道等で活躍している。

写真⑦　瀧田　湧さん　甲子園

写真⑧　秋元啓吾さん　卒業式「総代」

以上